



**赤羽別院報 第36号**  
 発行所 眞宗大谷派 赤羽別院 親宣寺  
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14  
 Tel・Fax (0563) 72-2308  
 Eメール akabane\_betuin@katch.ne.jp

**講師プロフィール**  
**近田 昭夫** (ちかだ あきお)  
 1931(昭和6)年 東京浅草に生まれる  
 法政大学経済学部経済学科 卒業  
 東京都豊島区 顕真寺前住職  
 総会所教導・同朋会館教導歴任  
 著書 「自分でなければやれない仕事」他

# あなたの現住所ってどこですか？



泉寺の本堂なのです。ここが仏法と世間ということの問題なのです。仏法と世間は別のことと思ふんです。先祖だとか、死んだらどうなるか、地獄とか極楽とか天国だとかいうのが宗教だと何となく思つていらつしやる方が多いのです。そうではない、仏法と世間とは同じことを考えているのです。ただ、ちよつと目線が違うだけなんです。今言う現住所というのは、私がいつでも生きていく生活現場ではないのです。連絡先を現住所と考えるのが世間で、それに対して「おれの生きていく生活現場はどこでしょう」というのが仏法なのです。

日々の生活の中で、恥ずかしい思いをしたり、身の置き所のないなかつたとき、「肩身が狭かつた」と、反対に人に褒められたと嬉しむのでしょ。その時鼻が高かつた、肩身の狭い思いと鼻の高い思い、この二つの思いのなかで、私たちは行ったり来たりしているのです。これが「私の現住所」なんです。

養母が13年前に95歳で亡くなった時の死に顔が見事だった。いい顔だったんです。実の親子ではないので、47年間この人と一緒に生活してきたなかで一番いい顔だった。どうして人が死ぬとあんないい顔になるのか、あんなき不思議に思いました。死に顔は実に堂々たるものですね。私は私でございまして、死に顔に一番近いのは復讐顔です。ありのままの自分になりきっている顔です。その共通点は意識の問題、つまり、肩身のせまい思いとか、鼻の高



立っつていようと、座つていようと阿弥陀さまに変わりはないので、立っつていようと座つていようと、私と阿弥陀さまとの関係の仕方が変わるんです。座像の阿弥陀さんというのは、仏の座におわしますから、こちらから近づいていくしか手がないんです。一生懸命功徳を積んで、仏さまに近づいていこう。そうすれば、私の願いを聞いてくれるかも知れないとなつていくんです。親鸞聖人は絵像・木像の阿弥陀さまを拝んではおられませんが、ご自分でお書きになられた「六字名号」あるいは「十字の名号」を御本尊としてお給仕し、礼拝なさつていたという。

そこが、本願寺という寺になつた時から、名号でなく絵像・木像の如來さまが御本尊になつたんです。聖人は、ご自分の口にあらわれる「南無阿彌陀仏」が、この私を救うと救うおはたらきであるというところに頭が下がつたから、自筆の名号を本尊として礼拝されたんです。ところが、宗教的感覚に乏しい我々は、仏さまというのに向うにいらつしやる尊い方だと思へません。仏さまはあそこにはいらつしやらないんですよ。お立ち

黄、私のお寺へお参りに来た生れの三河の拳母(現豊田市)生れのお婆さんは「お念仏は信心とか信仰とか宗教とか言ふもんではないと思つていた。東京へ嫁にきて、はじめて浄土真宗が宗教だと思つた」と言われるんです。それほど、昔の人は念仏しながら仕事をし、畑の草取りや田植をしながら、家族で念仏してたんです。だから、お念仏というのは空気のようなものであつて、浄土の風を呼吸して生活していったんです。そこで、今日のテーマ「あなたの現住所はどこですか？」というところです。私の名刺には私の現住所が印刷されていますけど、それは本当に私のいつでも生きていく現住所ではないのです。手紙の届く場所であり、連絡先であるには違ひないけれど、今私が生きていくのは、この西尾の明

い顔 養母が13年前に95歳で亡くなった時の死に顔が見事だった。いい顔だったんです。実の親子ではないので、47年間この人と一緒に生活してきたなかで一番いい顔だった。どうして人が死ぬとあんないい顔になるのか、あんなき不思議に思いました。死に顔は実に堂々たるものですね。私は私でございまして、死に顔に一番近いのは復讐顔です。ありのままの自分になりきっている顔です。その共通点は意識の問題、つまり、肩身のせまい思いとか、鼻の高

立像の阿弥陀仏 浄土宗も真宗も御本尊といえは阿弥陀如來さまです。ところが、浄土宗の阿弥陀さんはお座りになつていて、真宗の阿弥陀さんはお立ち姿なんです。

姿で仏の座から今まさに降り立とうとする姿であり、どこに現れるかという、私のところへ「南無阿彌陀仏」という言葉となつて現れて来て下さつていらっしゃるんです。阿弥陀如來さまは「南無阿彌陀仏」という言葉となつた仏さまで、文字ではなくおはたらきの仏さまです。文字と言葉とは質が違います。だからお立ち姿なんです。

名号と念仏 仏さまが仏さまらしい品格・神々しさをかなぐり捨てて「南無阿彌陀仏」という言葉となられたところが大それたんです。仏さまから私の方へはたらかけてくださる段階の「南無阿彌陀仏」を名号というんでは、それを受けとめ、本当におつしやるとおりの私でございまして、ご返事申し上げるところの「南無阿彌陀仏」を念仏というんです。お念仏というのは対話応答の世界です。親鸞聖人の手の形を見て、両手を合わせて拝んでみる姿はありませぬ。尋ねてきた人と対話している意味であり、一人静かにリビングでお念仏申しておられる姿でもあり、これは応答の姿なのです。信仰も、わが心の中の出来事である限り、マヨイの中の出来事です。が、そうではないのです。だから、私は皆さんに念仏申す生活をしていただきたい、如來光明中の人生を歩んでほしいと願つていまして、「念仏申す、そこに如來まします！」ということなんです。

平成25年5月26日 第10組・同朋のつどい 近田昭夫師講話要旨

秋の彼岸会 しょうぎひがんえ  
 9月22日(日) 午後1時  
 法話 第11組 浄徳寺 太藤 順世師

除夜の鐘(初鐘) じよのかね(はつがね)  
 12月31日(火) 午後11時30分より  
 先着順にとなたでも鐘撞きできます。甘酒・菓子等の接待があります。

修正会 しゆしやうえ  
 1月1日(水) 午前7時  
 法話 輪番

双全講 そうぜんこう  
 1月15日(水) 午前10時・午後1時  
 法話 第9組 正覺寺 櫻部 明師

# 教化センター設立に向けて 横浜別院輪番一行を来院

余りの暑さに境内の蝉も鳴き止む8月8日、横浜別院より御輪番以下一行3名が別院に来院された。横浜別院では、二年後に厳修が予定される宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要と並行して、教化センターの設立を目指しているところと、一足先に赤羽地域教化センターを設立し、五年余りの活動実績をもつ当該との情報交換を目的としたものであった。



熱心に意見交換

横浜別院の竹部輪番は、新たに教化センターを立ち上げることで、組織的な教化活動に取組み、真宗寺院が少ない教区内の門徒に対し、直接真宗の教えに触れていただきながら、念仏者を育て土壌づくりに努めて参りたいと話された。次いで、浅野輪番より当別院の歴史や教化センターを構築してきた経緯等、三

浦主幹から会計に関する事項を、各部の責任者より取組んできた事業についての個別説明が行われた後、質疑応答を含む積極的な意見・情報交換の場となった。このなかでは、当別院が発行する「赤羽御坊」新聞に深い関心が示された。お互いが地域の特性を活かしたより効果的な教化活動を目指すうえで、貴重な情報等と交換する時間を共有することができ、有意義な懇談会であった。

夏の行事としてお勤めされる「夏の御文拝読」が、本年も7月15日赤羽別院において厳修された。夏の御文とは、蓮如上人が明応七(一四九八)年八四歳のときに筆述されたもので、通常の法要で拝読される五帖御文とは別のものとして、夏中に拝読される四通の御文のことである。本年は、第6組(浦部市)専掌寺の桐原住任職に、第一通目の拝読の後法話をいただいた。師は、蓮如上人の御言葉を読みながら、ややもすると罪の感覚が薄れつつある私達現代人の姿について話され、聴衆に訪れた方々は、暑い中にもかかわらず真剣な面持ちで聞きながら聴聞されておみえであった。

## 赤羽別院 院議会を開催

赤羽別院平成25年度通り院議会は、去る6月27日当別院庫裏において、役員並びに議員32名(委任状出席を含む)が出席して開催された。議会は、浅野輪番より本山・教務所及び別院の近況報告に次いで上程議案の審議を行い、各種会計の平成24年度歳入・歳出決算並びに同25年度同予算案を、満場一致によ



会議場のようす

## 赤羽別院親宣寺 地域総代会開催

この日は、浅野輪番の挨拶の後、規約の確認と説明を受けての意見交換が行われた。今後、別院・寺院・門徒との間で、改めて連携をとり直す必要性を強く感じる会となった。



大浜騒動を語る石川師

法要後、第14組親鸞寺住職石川勇吉師より、大浜騒動について詳しくお話を戴いた。時は明治維新・新政府は国家神道によって国民の思想教化を図り、全国各地で寺院や仏像の破壊など仏教排撃運動が起る。石川台嶺師を中心とした青年僧で組織する三河護法会と熱心な真宗門徒は、これを「宗風にあるまじきこと」としてはねのけた。このことが、民衆の不安を助長させ群衆心理も作用して、大勢の犠牲者を生む結果となった。講師の石川師は「何故、かくも大勢の人々が立ち上ったのか、真実を後世に伝承しなければ」と話された。世の中が急激な変化を見せる中、自らの信仰を貫き通した方々の、法義に対する篤い思いにふれる法要であった。

# 殉教記念法要厳修

紫陽花が色づき始めた6月5日、鍵役・信情院殿ご参修のもと、殉教記念法要が厳修され、明治期の先達の御法に對する敬いのおこころを皆でいたさ直した。

## 安藤師・戸松師をお招きして 晴天講座を開催

別院の夏の恒例行事である晴天講座が8月25・26日の両日に開催された。講師は、初日に名古屋同朋大学准教授・安藤弥師、二日目に第18組福万寺住職・戸松憲仁師をお迎えした。「教如上人と三河」を講題に話された安藤師は、東本願寺の創立について「巨大な教団を恐れた家康の政治的配慮による東西分派」といった通説もあるが、決してそうではなく、それ以前に教如上人を慕う多くの門徒が教団を形成しており、この事実を上人が家康に認めさせた結果の寺地寄進である」とその経緯を話された。従って、東本願寺の創立は寺地の寄進を受けた時でなく、両堂が完成し遷座法要がお勤めされた慶長9(一六〇四)年9月16日(この月日は上人47歳の誕生日)と受け止めるべきであると話された。



笑顔で語りかける戸松師

また「三河門徒の上人支持の結束は全国一で、石山合戦の後2年間程流浪された折、この地方に数多の絵巻等が下付されていく史実を寺院名を示して紹介され、地元の話とあつて皆聞き耳を立てていた。二日目の戸松師は「無碍の道」と題し生死即涅槃を解かれたが、師は学生時代に落研で活躍されただけに、流暢な語り口で聴衆の笑いを誘いながらの講座となり、正に眠気を吹き飛ばす二日間の晴天講座となった。

## 山背隆文師の弾き語り 第一回みどろコンサート

赤羽別院に気軽に足を運ぶ、聞法道場により馴染んでいただきたいという願いのもと、第一回みどろコンサートが7月15日お御堂にて開催された。向後、年間三回程度開催が予定されているが、記念すべき第一回は、第11組善福寺住職・山背隆文師によるギターの弾き語りが行われた。師は、法話楽団として有名な「迦陵頻伽」の構成員として、ギターの伴奏をされるほか、寺院関係の垣根をこえて様々な場でギターの弾き語り活躍されている。この日は「シャボン玉」「涙そうそう」「故郷」など小学唱歌を交えて10曲程が演奏され、その歌にまつわるエピソード等が語られて、それぞれの歌詞に込められた願いを確かめることができた。時には、参加された方々と合唱もあり、最後には「夕焼けこやけ」と「恩徳讃」が別院境内に響き渡った。次回のみどろコンサートは、二回(朝三)奏者をお迎えして10月16日に開催の予定です。是非お出掛け下さい。



熱演! 山背師の弾き語り

地域ブランド/伝統的工芸品 経済産業大臣指定

# 三河仏壇

西尾地区 広告協賛組合加盟店

浅井 檀店	(0563) 52-1841
永代 仏屋	(0563) 56-1659
さかきばら 仏壇店	(0563) 57-4576
杉浦 仏壇店	(0563) 57-4743
つちや 仏壇店	(0563) 57-3576
大和 屋仏壇店	(0563) 57-5544
渡辺 佛壇	(0563) 57-3965

今日でも、6ヶ月かけて集落を巡るまわり仏さんと呼ばれ、二百年余の歴史を誇る「二日講」をはじめ各種の講が伝承される湖北真宗門徒の篤き信仰心に触れる縁を戴いた。当院では「赤羽別院親宣寺地域総代会」の活動に資することを目的として、去る7月9日、浅野輪番・三浦教化センター主幹が、滋賀県長浜市・教如上人縁りの五村別院をお訪ねした。ここで見聞された湖北門徒の真宗の法義相續と、五村は並々ならぬものであり、いはば両別院維持への思いは、経営費・教区費等のご依頼金の他に、長浜別院分を含む経常費等々ご門徒一戸当り1万円余の財政支援を行っているとのことである。また、別院の諸行事には、別院護持運営委員(世話方)50名が年間数十日にも及ぶ奉仕活動に携わっている。委員経験者の「いいご縁をいただいた」の念をもって、次の世代に確実に継承されているのである。

# 布教大会を開催

第9組 良興寺

「岡崎教区教化団」が主催する「布教大会」が、第9組良興寺(三浦真教住職)において7月16日、孟蘭盆会布教大会と銘打って開かれた。布教大会は、布教活動に熱心なお寺さん四十数名で組織する任意団体「岡崎教区教化団」が、年間3、4回会場を移して開催するリレー法話大会である。

この日の会場良興寺は16年連続で、宿禰寺住職・織田慶雄師の典札に従って、午前9時の本多友明師を皮切りに9名の説教師が登場され、一人当り20分程の持時間で、それぞれのテーマを巧みな話術で説かれた。午後の部の導入で、賛助会員の演説師・宇野政博氏が「アンちゃん」なる人形



紅一点・岡崎祐静師

# 三河すーぱー絵解き座 絵解き説教と講談

三河すーぱー絵解き座主催の絵解き説教と講談は、去る6月1日に「絵解きよつてあきらかにされた園」と題し、赤羽別院お浄堂において開催された。

梅雨の晴れ間の好天に恵まれ、大勢の方々が見物に駆けつけた。

いわれる「親鸞聖人絵伝」を、川祐美子師は、悟りの世界と迷いの世界を描く「熊野観心十善受陀羅尼」を解かれた。最後に、第8組福正寺・本多友明師は、白い線の右側に逆巻く水の河・左側に燃え盛る火の海の二河(現世)を描く「二河白道」を笑いを誘いながら解かれた。

三師は、それぞれの個性を前面に、時に染み入るが如く沈重に、時に天に抜けるが如く朗朗と説かれた。

第一部・講談には、ラジオやテレビでお馴染みのパリスナリテイ・水谷ミミ(風靡)さんと古池鱗林さん(風靡)さんの講談が、それぞれのお腹が振れんばかりのブツブツの語り、満堂の聴聞者を笑いの渦に巻き込み、寺では珍しい講談を堪能した。

# 寺カフェ 祖父江佳乃師の節談説教

西尾市順海町の第11組唯法寺では、毎月19日の午後、ゆつたりとコーヒーを味わいながら、仏法に学び集い「寺カフェ」が開催されている。

6月の寺カフェは、名古屋市の有隣寺住職の祖父江佳乃師をお招きし、節談説教を拝聴した。

節談とは、布教師が独自の節回しによる語り口で、聴衆をうならせる説法である。

佳乃師は現在、当代随一と謳われた祖父・省念師の志を受け継ぎ、節談の普及に尽力されている。

この日は、「自身の生い立ちから得度に至るまでの経緯を、ユーモアを交えながら法話された後、コーヒータイトをばさんで、宗祖親鸞聖人の



熱弁を奮う祖父江師

# 清澤満之師を偲ぶ 第20回浜風臘扇忌

第14組 西

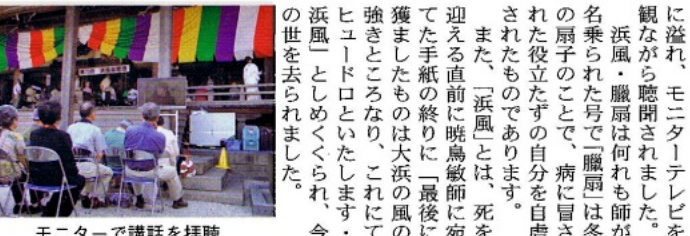
五月晴の6月3日、真宗近代教学の祖といわれる宗教哲学者・清澤満之師の記念法要「第20回浜風臘扇忌」が師の自坊第14組・西方寺において営まれた。

法要では、清澤満之師の師の遺徳を偲ぶ表白拝読の後、大勢の参拝者とともに勤行が行われました。

生誕一五〇年に当たる本年は、テレビ等で活躍の宮崎哲弥氏を迎えた記念講演が催されました。政治・経済評論家として脚光を浴びる宮崎氏ですが、自らの基本的立場は仏教者といわれる程の仏教家でもあります。

講演は「時代とともに進化する仏教」と題し、革新をテーマに、おなじみの切れ味鋭い語り口で、自身の仏教観を披露されました。

当日は、広い本堂に入りきれない参拝者が、回廊や境内に設けられたテント席



モニターで講話を拝聴

に溢れ、モニターテレビを観ながら聴聞されました。浜風・臘扇は何れも師が名乗られた号で「臘扇」は冬の扇の立てたことで、病に冒された役立たずの自分を自虐されたものであります。また、「浜風」とは、死を迎える直前に眺鳥敏師に宛てた手紙の終りに「最後に獲ましたものは大浜の風の強きところなり、これにてヒュードといたします。今、世を去られました。」

梅雨明けと同時に連日の猛暑が続く7月22・23日の二日間、安休寺・隆勝寺を会場に、第13組主催の夏期真宗講座が開催された。

この講座は、夏のひと時ともに汗をかきながら、本切に身を置いて聞法する大切な法座で、約百年前から続く組の伝統行事である。

本年は、京都・大谷大学の藤嶽信教授を講師にお迎えし「法然上人の教えに学ぶ」と題しお話を戴いた。

師は、親鸞聖人が二十二年周に及ぶ北畠道の堂信時代から、新たな道を求め山を下り、吉水での法然上人との出会いにより、本願念仏の教えに生かされた歩み(「教義抄」や「金剛大業師」のこと)などを挙げて懇切



安休寺会場のようす

# 一年に一度は赤羽別院へ

去る7月12日、第14組では碧南市文化会館に、大谷大学・門脇健教授を招き「人間にとっての葬儀」をテーマの壮年対象真宗講座を開催。二百名余の聴聞者でホールは満席の盛会となった。

寺に生れたことがプレッシャーで逃げ出したかかったが、あるとき「なぜ葬儀をするのか」という問いに対して、自然に「ゴミにはできないから」

そのことにより「かけがえない自分」というものが回復されていくという、とても興味深い内容の講座であった。

質疑応答では、いじめの問題に対して「悪者を作り、その人を責めるのではなく、皆が責を負い本質的な解決に努めなければならぬ」と結ばれた。

と答えている自分をもめて不思議に思った。人間の基本は「甲うこ」とである。人間は、死者を尋ねて行くことを土台にしている。その機会が葬儀であり、法事である。亡くなった方との対話を通して「浄土から真実を見よ」と問われることにより、社会の価値観にとられ、己を見失っていた自分に気づく。

# 人間にとっての葬儀

おかげさまで創業113年

お洗濯 仏具 寺院仏具

仏壇・墓石

西尾店 年中無休  
西尾市徳次町下十五夜 38-1  
0563-57-0763

碧南店 水曜定休  
碧南市栄町 2-115 (栄町けんしん東)  
0566-46-7610

愛知県下に14店舗!

お仏壇・墓石の 永田竹佛壇店 0120-150-761

上記店舗にご来店の際は、この広告をご持参下さい。粗品を量産致します。

医療法人 社団福祉会 Tel(0563)72-1701 (代) Fax(0563)72-1785 7444-0495 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中113番地1

URL http://www.takasu-hp.or.jp E-mail info@takasu-hp.or.jp takasuhp@ilac.ocn.ne.jp

<p>□ 高須病院 Tel(0563)72-1701 (代) Fax(0563)72-1785 □ 訪問リハビリ Tel-Fax(0563)73-5225 □ 通所リハビリ Tel-Fax(0563)72-0819</p>	<p>□ 介護老人保健施設 高須ケアガーデン Tel(0563)72-1985 Fax(0563)72-0501 西尾市一色町赤羽上郷中120番地 7444-0495</p>
<p>□ 血液透析センター Tel(0563)72-0830 Fax(0563)72-0829</p>	<p>□ 高須デイサービスセンター Tel(0563)74-1077 Fax(0563)74-1078 西尾市一色町赤羽北荒子18番地 7444-0495</p>
<p>□ 高須病院 通所リハビリセンター Tel(0563)72-1701 (代) Fax(0563)72-1714</p>	<p>□ グループホーム高須 Tel(0563)74-2071 Fax(0563)74-2072 西尾市一色町赤羽北荒子18番地 7444-0495</p>
<p>□ はす訪問看護ステーション Tel(0563)72-0877 Fax(0563)72-0527</p>	<p>□ サービス付き高齢者向け住宅 サンライズ高須 Tel(0563)72-9781 Fax(0563)72-9782 西尾市一色町赤羽北荒子20番地1 7444-0495</p>
<p>□ 訪問介護 高須ヘルパーステーション Tel(0563)72-0531 Fax(0563)72-0535</p>	<p>□ サンライズ高須 デイサービス Tel(0563)72-9785 Fax(0563)72-9786</p>
<p>□ 居宅介護支援事業 はすケアササーステーション Tel(0563)72-0528 Fax(0563)72-0717</p>	<p>□ サンライズ高須 ヘルパーステーション Tel(0563)72-9811 Fax(0563)72-9812</p>

岐阜・富山の

由緒寺院を訪ねる 第9組

岡崎教区第9組では、真 寺宝を拝見した。宗の歴史を体感するとともに、道中、世界遺産として有名な白川郷や五箇山合掌集居ることを目的として、去 落の散策をばさみ、富山県 修旅行を実施した。 二日には、南砺市の城 第12回となる今回は、初 端別院善徳寺を訪ね、虫干 日に岐阜県指定重要文化財 法会に参拝し、午前中いっ を多数所蔵する安養寺(弟 ばい地元の大勢の方々と一 上八幡町)と連如上人の(弟 緒に法話を聴聞した。 子・赤尾宗宗が開いた行徳 開基を蓮如上人とする善 寺(富山県南砺市を参拝し 徳寺は、三度の寺地移転を 経て現在の地に寺基を定め 城端別院となったのは明治 以降のことである。 例年、春先に行われた当 研修行だが、本年は教如 上人四百回忌が厳修された ことや善徳寺の虫干法会参 拜目的のため、暑中の実施 となったが寺族・門徒46名 が参加し、共に学び、共に 交流を図るといふ目的を達 成した研修行であった。



行徳寺山門前で記念撮影

夏の子どもおひなまつり

第14組・常瑞寺

夏休みに入った7月25 25日の6日、第14組常瑞 寺では「夏の子どもおひな まつり」が開催された。 「おはようございます」朝 7時半、坊守さんの元氣いっ っばい声に、子ども達は 一斉に姿勢を直し、念珠と 経本を手に御本尊と正対、 子供導師により正信偈がお 勤めされ、お文が拝読され た。皆が揃って大きな声を 発し、練習の成果が充分に 発揮されていた。 大勢の小學生が参加、坊 守さんの的確なアドバイス により、子どもの自主性を 重視した運営がされており、 近年、稀に見る素晴らしい



女子児童の導師でお勤め

鳥の青い根の赤い続

シユーカーツの季節

「青い鳥」の物語の中では 幼かった千儿とミチル。 大人になった二人はどんな 生活を送ったんだろう。生 きていくには仕事も探さな ければならないだろうし、 「シユーカーツ」(就職活動) が本格化する季節である。 もっとも、最近の学生さん は学業そっちのけで一年中 シユーカーツしているよう に見える。そして、そんな に苦労して就職しても、リ ストラされたり会社自体が なくなってしまうたり。！。 何とも難しい世の中である。 ところで、最近はどう一 つの「シユーカーツ」(終活)が 注目されているらしい。ミ コンカツしてくれ！」 私にはこんな親の悲鳴が に死の準備をしておくこ 聞かえて下さるうだ。(K)

報恩講にお参りし

二胡を聴こう!

報恩講は「本願念仏のみ教え を顕かにしてください」と、宗祖 親鸞聖人の恩徳に報えることも に、仏さまの「我を救わん」とい う願いに報恩感謝の意を顕わす。 真宗門徒にとって最も大切な法 要として、七百年余の永きに亘 り受け継がれてきた。 赤羽別院では、次の日程によ り報恩講をお勧めします。 10月14日(月) 初連夜 午後1時 法話 第15組 明水寺 鈴木 聡 師 10月15日(火) 日中 午前10時 法話 加賀市 光蘭坊 佐野 明弘 師 10月16日(水) 結願展朝 午前10時

第2回みどうコンサート 中村 ゆみこ さん(岡崎市)による 親鸞聖人讃仰 二胡で聞く 恩徳讃 平成25年10月16日(水) 午後3時30分 報恩講終了後 赤羽別院 御堂 他多数 入場無料!是非お出掛け下さい。

庫裏の花瓶について 前35号で案内しました「庫裏 で使用する花瓶」は、吉崎仏壇 店様のご配慮により解決しまし た。お礼方々ご報告致します。

人事

平成25年6月1日 発令

列座見習 木村 亮 第9組・福泉寺 衆徒 就任のごことは どの度、ご縁をいただき赤 羽別院の列座見習として、末 席に加えていただくこととな りました。二年間研修生とし て岡崎の三河別院にて、声明 や作法について学びました。 また、今後においても、本山 で行われている中央声明講習 にも参加して、研鑽を重ねて 参る所存であります。 野々山隆音師 平成25年7月28日就任 このたび、本山御影堂にて 住職の任命を受けました。永 覺寺の護寺を門徒代表として 行いますので、何卒、ご協力 の程宜しくお願ひします。 第12組・蓮光寺 藤澤康秀師 平成25年7月28日就任 浄土真宗にご縁をいただいた 寺院の住職として、深く責 任を感じ念仏の教えに生きた れた聖人の信心を、人々にお 伝えしたいと願っております。

崇敬寺院の新住職

第11組・聖運寺 泉 敬祐師 平成25年6月28日就任 このたび、宗祖親鸞聖人の 御真影の御前にて住職に任命 されました。ご門徒の皆様と ともに、住職の務めを果たし て参りたいと存じます。 第10組・永覺寺

退任のごことは どの度、長い間お世話にな った列座を辞職致しました。 自坊での普段の生活では、 触れることがない出来事との 関りや感謝に堪えないお支え、 また、数え切れない方々との 参らせという宗祖聖人の 言葉のように、不思議の縁を 有難くいただき、皆様と共に 赤羽別院を守り、声明の輪を 広げていきたいと思ひます。 平成25年5月31日 発令 列座退職 本多 友明 第8組・福正寺 住職

第5回 御坊俳壇・川柳

俳句(順不同) 蓮者 三浦 貞美氏他 茄子胡瓜 植えて獲らずに 遊かれけり 重留 香苗 生命は 支那より降り 原爆忌 極楽の 地獄の揺るる 大切子 水打つや 昭和の路地の 狭かりし 加藤 久子 本堂の 椅子整然と して涼し 横山 茂 団扇もつ 指しなやかに 星の青 小笠原幸雄 釈迦三尊 記る山門 夏つばめ 野々山良子 窓開けて 仏間に通す 青田風 石川 松葉 空弾の つきし庭木を 供花とせり 神谷つた子 浦く雲に 向日葵大きな 貌を垂れ 三浦 葵水 川柳(順不同) 寺の寄付 払って極楽 予約する 依藤 哲也 寺の娘を 好いて得度し 婿に入る 神原さちよ 涼しそう お化け屋敷で 熱中症 辻 千里 次回応募締切り 11月10日です



高須邦治氏逝去

赤羽別院の責任役員・高須邦治氏は、平成25年8月20日、葉石効なく黄泉の世 界に旅立たれました。 衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。 氏は、仏法篤信家で、永年に亘り物心 両面で赤羽別院の護持運営に格別のご貢 献をいただきました。 合掌

お寺の掲示板 刃ものが 凶器ではない 人の心が 凶器である 第11組・恵琳寺

赤羽御坊新聞ご懇志 嚴西寺同行中様 嚴西寺同行中様 貴重なお懇志を有難うございました。

編 集 室 新聞・赤羽御坊は、平成20年に教化セ ンター広報部発足以降、今号で21回目の 発行となります。 ◆毎号、一面には著名講師の法話・講 話の要旨を抜粋し掲載しています。 ◆編集会議でこの記事の担当に指名され ると、身の引き締まる思いで聴聞し、何 度も繰り返しテープを聞いて時間がかか るうえに、編集長からは原稿の催促もあ り苦労があります。でも、それ以上に得 るものが多く、他には替えがたい役得で あると考えられています。 ◆今回の近田師の法話は、テープを聞き 直してみると、私たちの日常の生き様を 鋭く抉る一方でユーモアにあふれ、師の あたらしい人柄が蘇ってきて楽しいもの でありました。 ◆5月下旬の編集会議で、その構成と 記事担当者を決めた本号は、発行に至る までに再三に亘り記事の差替え需要が生 じ、その都度の割付や文字数の修整作業 は大変なものでした。その結果、夏期に 各寺院が取り組む晴天講壇や子ども行事 等に関する記事を大幅に削減・縮小する ところとなり、紙面不足を痛感した次第 でありました。